

## 当院における腹膜透析(PD)から血液透析(HD)への移行期患者の傾向

医療法人衆和会 長崎腎病院・長崎腎クリニック

○美佐保恵美 岩本まゆみ 山中真樹子 久保純子 小松利恵子 白井美千代  
丸山祐子 橋口純一郎 船越 哲 原田孝司

### 【背景】

PDは5年程度でHDに切り替えるべきであるが、PD患者の半数以上がHDに対して拒否的であり、この移行時期の患者指導は、スムーズなHDの受け入れのために非常に重用である。

### 【目的】

当院でPDからHDに移行した患者において、HD受け入れの良好群と不良群の傾向を解析し、HD移行時指導における一助とする。

### 【対象・方法】

過去5年以内にPDからHDに移行した外来透析患者16名につき、聞き取り法にて良好群と不良群の傾向を検討し、同時にKDQOL-SFにて測定したQOLとの関連を調査した。

### 【結果】

年齢の中央値は55才(22-74才)・男性9名/女性7名・有職率60%と、母集団より若く・男性が多く・有職率が高い傾向にあった。16名中HD受け入れの良好と思われた群12名と不良と思われた群4名において、HDへの移行によって平均QOLスコアは上昇しており、両群間に差は見られなかった。しかし、良好群で「Hb上昇による息切れの改善」「倦怠感の軽減による気分の良さ」、「皮膚白色が白くなった」などのプラスの経験が得られたのに比べ、不良群ではこれらがなかった。

### 【考察】

HD移行に至る過程では、PD効率の低下による尿毒素物質の増加や貧血などの合併症憎悪を伴うことが多いと考えられる。HDに移行する症例においては、HDによる身体症状の改善を強調することがポイントの一つと思われた。